

農家と農業委員会をつなぐ広報誌



## バナナ栽培に 挑戦し続けついに収穫



私たちには、バナナと言えば熱帯域の暖かい地域での栽培というのが一般常識です。しかし、千葉一男さん（東山町松川）は、7年ほど前から自宅前の畑でバナナの栽培に取り組み、長年の苦勞が実り、昨年の秋に収穫に成功したということことです。

千葉さんの育てるバナナは耐寒性が強く、口に入れるととろけるバナナアイスクリームのような食感が特徴の、アイスクリームバナナという品種だそうです。

自慢のバナナをほおぼり、本物の味だと自慢げにおっしゃる千葉さん。近い将来、市内の青果売り場等に陳列されることも期待されるそうです。

バナナだけでなく、自作のピニールハウスや温室ハウスでは、

試行錯誤を重ねながら多肉植物やレモン等の栽培も熱心に続けておられます。

〔東山地域〕  
千葉 一男さん

千葉さんは行政区長の職にもあり、さらに各種講演も依頼される等、日々奮闘されております。これからも、地域の力としてご活躍をご期待致します。

〔農地利用最適化推進委員〕

小野 修 司



## 農地パトロールを実施します

農業委員会では、地域の農地利用状況の確認と、遊休農地の実態把握や発生防止・解消などの指導を目的とし、9月まで市内の農地パトロールを実施します。調査の際には、農業委員及び農地利用最適化推進委員が農地に立ち入ることもありますので、ご理解とご協力をお願いします。

この調査で、一年以上耕作されず草刈りなどの維持管理もされていない農地や、周辺の農地と比べて著しく低利用の農地は、遊休農地と判断されます。これらの農地の所有者の方には、農地の利用意向調査の文書を送付しますので、受け取った方は期限までに必ず回答してください。

農地を遊休農地化させないためにも、農家の皆さんには日頃から適切な管理をお願いします。

農地利用についてお困りのことや、わからないことがありましたら、地域の農業委員・農地利用最適化推進委員、農業委員会事務局、農政推進課、または各支所産業建設課にご相談ください。



出発宣言を行う佐藤繁農地専門委員長（左）



農地パトロール出発の挨拶を行う石川誠司会長



# 農地を守る、地域を守る 各地域の取り組み

高齢化や後継者不足による農業者人口の減少や、耕作放棄地の増加など、様々な課題を抱える農業。その中で、農地や地域を守ろうとがんばる取り組みを紹介します。



外は青空が広がり、太陽の光をたくさん浴びた作物がLabo(ハウス)の中で旅立つ日まで輝いているイメージだそう。地域というスクラムを組み積極的にトライを重ねていく佐々木さんに今後も期待します。

今回は、厳美町でいちごを栽培している佐々木貴浩さんに話をお伺いしました。祖父から続いているいちご農家を平成29年に継ぎ、農園青空Laboという農園として、8アに約7000株、また他にりんどう20アと稲作3・5畝の栽培をして、1年を通してできる農業を目指して取り組んでいます。

いちごは旬の美味しい時期に新鮮なものを食べてもらいたい、という思いで地元の道の駅を中心に出荷販売しています。また佐々木さんのいちごを待っている取引先もあり、農園青空Laboの看板商品として毎年消費者に届け続けています。

りんどうは定植に家族や親戚の協力を得ながら、収穫出荷は佐々木さん一人で行っています。収穫では、はさみを使わず手でポキッと折ってできることに驚きました。

休日の過ごし方をお聞きすると、農作業の余裕のある時に、小学校からはじめたラグビーを社会人チームに所属して活動しているそうです。ラグビーはボールの争奪、攻撃、防御、パス、キック等、状況に応じた動きが求められます。佐々木さんが取り組んでいる農業は、自分たちの地域は自分たちで守り、地域の人たちと協力して行いたいという思いが基本にあります。ラグビー同様、さまざまな局面の選択肢にも、柔軟に対応して動く姿勢が伝わってきます。

## 一関地域

### 農業へ積極的なトライ！

農業委員 松岡 千賀子

## 花泉地域

### 働きがいのある農業を目指して！

農業委員 佐藤 多賀幸



実現したい！」とJAを介して地元永井と藤沢で1年間トマト栽培を研修し、3年前に22アハウスの作付けをスタートしました。現在の作付面積は、昨年より8ア増やして30アに拡大したそうです。

労働力は、正太郎さんと父親の正宏さん、更に4人のパートさんの6人。昨年からは燃料や肥料、農業等生産資材の高騰により、厳しい経営環境ですが、父の正宏さんの助言により、化成肥料だけに頼らず米糠や稲ワラ、粉殻を発酵させ施用する等、コスト削減とSDGsに取り組んでいます。

数年前に実家の敷地内に建てた新居で、奥様と小学4年生の子供さんと幸せに暮らしている生活を送る正太郎さん。目標はトマト栽培で先輩方に追いつき収入を安定させること、と意欲たっぷり語ってくださいました。地域の担い手として更なる活躍が期待されます。

佐藤正太郎さんは、大学卒業後石巻市にある水産加工会社に就職したが、東日本大震災で会社が津波に飲み込まれ本人も被災し実家に戻りました。

実家で父親の農業を手伝っているうちにトマトづくりに魅力を感じ、「安定した経営と働きがいのある農業を

農業委員会だより51号(令和5年4月1日発行)に掲載いたしました「頑張る地域(P1)」の内容に、一部誤りがございました。右記のとおり訂正させていただくとともに、深くお詫び申し上げます。

#### 訂正箇所

誤) 道の駅かわさきは岩手県37駅中3番目の売り上げを誇っており  
正) 道の駅かわさきは岩手県35駅中3番目の売り上げを誇っており



## 大東地域

# 飼料用米 ”反収700kg目標に“

農地利用最適化推進委員

小野寺 照夫

大東町猿沢地区にある山崎飼料米生産組合では、組合員10人で、飼料用米13畝の栽培を行っております。

昨年度は、飼料用米品種「つぶゆたか」の一反歩当たりの収量（反収）700kgを目標としておりましたが、結果としては575kgにとどまっております。悔しい思いをしました。一方で、別品種の「いわいだわら」では反収711kgの実績があり、品種によって収量に大きな隔たりが見られました。

山崎飼料米生産組合はフリーデングループ飼料米利用推進協議会に所属しており、生産された飼料米は、大東町内にある株式会社フリーデンという企業養豚家で飼育されている豚の飼料になっています。飼料米を食べた豚の排泄物は飼料米の肥料に活用され、地域循環型農業として消費者から高い評価を得ています。

山崎飼料米生産組合では、生産資材、燃料等が高騰している中、水田活用直接支払い交付金の上限額（10万5千円）を得るため、生育状況調査の検討会や施肥、病害虫防除の共同防除を徹底しており、目標である、反収700kgの達成に向けて日々研鑽を積んでいます。地域農業の活性化に向けて、さらなる活躍が期待されます。



## 千厩地域

# 持続可能な 地域づくりに向けて

農地利用最適化推進委員

遠藤 真一



今年4月、次の世代に繋ぐ営農、持続可能な地域作りを目指して、農事組合法人「大平（おおひら）だいら（ファーム）」が千厩町奥玉地区に設立されました。組合員51名で、今年度は主食用米6畝、飼料用米、稲WC S等の転作作物13畝、その他水田等7畝を作付しています。

室根山の麓に位置し、市内の他地域よりも比較的冷涼な地域の特徴を考慮し、今後の営農をどのように展開していくか、役員始め、地域住民一丸となって取り組んでいます。

労働者の確保、補助金の見直し、基盤整備事業の遅れ等の課題のため、兼業化や高齢化に伴う集落農業の危機的状況を憂慮し設立された組織の多くが、現在、岐路に立たされています。

それぞれの組織には、将来への希望と地域への想いが詰まっています。食糧の生産基盤が破壊されるのを防ぎ、持続可能な農業の実現を後押しする政策が求められています。

## 川崎地域

# 二人三脚で地域農業を守る

農地利用最適化推進委員

小野寺 修

薄衣巻地域の今野壽さんは、奥様の典子さんと二人で水田6畝と和牛8頭を営農しています。

巻地域は北上川に隣接しており、そのうえ堤防がない為に洪水の常襲地帯となっています。昨年は大雨が少なかったにも関わらず水田が冠水する被害も発生しました。そのため、水田より少し高い所に牛舎を設置しているほか、高台に牛の避難場所を作り、増水に備えています。

巻地域は北上川と山間部との間に23畝の水田があり、現在は6戸の農家さんで耕作しています。

高齢化に伴う後継者不足や農地の耕作放棄などが懸念されていますが、壽さんは昨年まで作業を頼まれていた水田2畝を借り受け、営農拡大をしました。

「巻地域の川と水田と森の景観が好きなので、離農などにより耕作放棄地が発生する姿は見たくない」と話す壽さん。今後も地域の皆さんと協力して農地を守って行きたい、と意気込みを語っていただきました。

壽さんは農地利用最適化推進委員を務めており、家業の傍ら地域の農地を守る活動も行っております。典子さんはいわて平泉農協の理事を務めており、お互いに多忙ですが二人三脚でふるさと農業を守っています。



# 農業者年金で明るい将来計画!

## 将来への備えを

## 農業者年金と共に



【藤沢地域】 及川 華代 さん

及川華代さんは、藤沢地域の藤沢地区でご両親と共にハウスピーマンの栽培に取り組んでいます。

盛岡で農協関係の仕事をしてきた及川さんは、いずれは家業である農業の後継を考えると、就農相談などで様々な情報を仕入れていました。実際に実家へ戻り就農したのは6年ほど前でした。

大規模にピーマン栽培を行っている農家での研修も終えて、今では技術の伴った経営分析も担っております。

現在、ハウス8棟、18アールの栽培ですが、さらに面積を増やし、反収も地域のトップクラスへと夢はつきま

せん。

「農業者年金への加入は就農後一年ほどで、家族の薦めから加入した」とはにかんではありますが、遠い将来のことではあるけれども国民年金だけでは心細い、様々な優遇措置のある点が大きなメリットと感じたと話されていました。

今、このような大きな決断をして就農する農業後継者と呼ばれる若者が多くなりつつあることは、大変喜ばしいことです。

みなで、次の世代に引き継いでいきたいものと強く思います。

農業委員 佐藤 和威治

農業者年金のお問い合わせは  
農業委員会またはお近くのJA窓口へ  
電話 43-3606 (一関市農業委員会)

農業委員会では、一関市のホームページで委員会に関する情報を提供しています。毎月の総会日程や議事録、農作業標準賃金、届出や手続きの案内などを掲載していますのでご覧ください。

<https://www.city.ichinoseki.iwate.jp/>

一関市のトップページの「総合案内トップページへ」をクリック。画面上部の「産業振興」タブから農業委員会ページへお進みください。

## 全国農業新聞

購読料

月額 700円

## 全国農業新聞の購読を!

農業委員会組織が協力して作成している新聞で、毎週金曜日発行しています。

●お申込みは、農業委員会、本庁農政推進課、または各支所産業建設課まで

## 農地に関する手続きのお知らせ

許可の申請

農地を売買、貸借する場合は農業委員会の許可が必要です。また、農地を農業以外の用地にする場合は農業委員会を経由して県知事の許可が必要です。

いずれも農業委員会総会で審議しますので、毎月5日までに農業委員会事務局、本庁農政推進課、または農地の所在地域の支所産業建設課へ申請してください。申請の前に許可要件や必要な書類などの事前相談をお勧めします。

届出

農地を相続などで取得した場合や、農地を耕作しやすくするために盛土、切土などの簡易な改良工事を行う場合は農業委員会への届出が必要です。

窓口は農業委員会事務局、本庁農政推進課、または農地の所在地域の支所産業建設課です。

## 編集後記



近年、地震・台風など自然災害の発生が多くなったように思います。大正十二年に甚大な被害をもたらした関東大震災から、今年で百年の節目を迎えます。また、地球温暖化の進行に伴って、大雨や短時間に降る強い雨の頻度はさらに増えることが予測されており、台風や豪雨による風水害、土砂災害発生リスクが高まっています。最近、「線状降水帯」「記録的大雨」などの発生をよく聞くようになりました。

常に気象情報に耳を傾けると同時に防災対策に心がけておくことが大切だと思います。

災害が来ないことを願うと共に、日頃の見守り活動により、みなで農地、集落を守っていきましょう。

農業委員 藤原 美喜男

「いわいの大地」編集委員

編集委員長 佐藤 和威治(藤沢)

副委員長 畠山 潔(大東)

編集委員 松岡 千賀子(一関)

佐藤 多賀幸(花巻)

遠藤 真一(千厩)

佐藤 想司(東山)

藤原 美喜男(室根)

小野寺 修(川崎)

